

この説明書は当院で行っている主な血液・尿検査の結果値について、一般的な内容で分かり易く説明してあります。基準範囲（当院）より少しでも高ければHマーク、少しでも低ければLマークが付きますが、必ずしも異常とは限りませんのでご注意ください。なお、検査値は単独では判断できず、症状や経過と合わせて医師が総合判断します。

生化学検査

2026年1月5日改訂

	項目名	基準範囲	単位	検査の意味	
肝胆道系検査	AST	13~30	U/L	肝臓にどのくらい負担がかかっているか、肝細胞障害の程度を表します。主に肝炎、脂肪肝、肝硬変で高くなります。他にも筋・血液疾患でも増加することがあります。また、LDHでは採血時の変化で赤血球が壊れてしまい(溶血)高くなることもあります。	
	ALT				男 10~42 女 7~23
	LDH	124~222	U/L		
	CHE	男 240~486 女 201~421	U/L		栄養不足や肝硬変・肝炎で低下し、腎障害・脂肪肝等が増加します。
	T-BIL	0.4~1.5	mg/dL		黄疸の程度を示します。肝胆道系疾患、ある種の貧血で高くなります。また、体質が関係する場合もあります。
	D-BIL	0.0~0.3	mg/dL		
	ALP	38~113	U/L		肝胆道系で高くなります。
	LAP	35~80	U/L		他にもALPは骨や小腸疾患でも高くなる場合があります。
	γGTP	男 13~64 女 9~32	U/L		γGTPは飲酒でも高くなり、LAPは妊娠により高くなります。
総蛋白	TP	6.6~8.1	g/dL	TP(総蛋白)はアルブミンとグロブリンの総称です。アルブミンは主に栄養状態、グロブリンは免疫状態(抗体)を表しています。A/G比はこの比を表したもので各種の病態で変化します。	
	ALB	4.1~5.1	g/dL		
膵臓検査	AMY	44~132	U/L	アミラーゼは膵臓、唾液腺に含まれる消化酵素で、急性・慢性膵炎や耳下腺炎で高くなります。リパーゼ、膵アミラーゼは膵臓から出される消化酵素で膵臓疾患で高くなります。	
	リパーゼ	7~60U/L	U/L		
	P-AMY	18~53	U/L		
筋力検査	CK	男 59~248 女 41~153	U/L	骨格筋、心筋、赤血球に含まれる酵素で筋肉の障害の程度を表します。心筋梗塞・筋疾患・ある種の薬剤の影響で高くなります。また、運動後にも高くなります。	
	CK-MB	5以下	ng/mL		
腎・尿道系検査	UN	8~20	mg/dL	腎臓の働きをみる検査で、腎機能の低下で高くなります。UNIは消化管出血、栄養状態とも関係します。	
	CRE	男 0.65~1.07 女 0.46~0.79	mg/dL		
	UA	※男 3.7~7.0 女 2.6~5.5	mg/dL		痛風や腎臓機能の低下で高くなります。
	Na	138~145	mmol/L		電解質といい、生体内の機能を維持するため一定のバランスに保たれている物質です。腎機能低下、脱水、ホルモンの異常などでバランスが変わります。
	K	3.6~4.8	mmol/L		
	CL	101~108	mmol/L		
	Ca	8.8~10.1	mg/dL		Caは血液中のCaを測定しているため、この値で骨のカルシウム状態をみることはできません。
eGFR	糸球体濾過量	60以上	mL/min	腎臓にどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示し、この値が低いほど腎臓の働きが悪いということになります。慢性腎臓病(CKD)は、その重症度に応じてステージ1からステージ5の5段階に分けられ、その指標となります。	
鉄代謝	Fe	40~188	μg/dL	体内の鉄分は約70%が赤血球中のヘモグロビンに、30%が臓器内に蓄えられ総量は約4g程あります。血清鉄とはトランスフェリンという鉄を運ぶ蛋白と結合した鉄で体内の総鉄分の0.1%以下です。不飽和鉄結合能は、この運搬蛋白とあとどれくらいの鉄が結合できるかを表したものです。おもに各種貧血の鑑別に使用します。	
	UIBC	男 170~250 女 180~270	μg/dL		
脂質検査	TC	※142~219	mg/dL	一般的に脂質検査と言われTC、TGが増加した状態を脂質異常症といい動脈硬化の危険因子とされています。TCはコレステロールの総量で、HDLは末梢組織から肝臓にコレステロールを運ぶことで抗動脈硬化作用がありHDL-Cを善玉コレステロールと呼び、LDLは肝臓から末梢へコレステロールを運ぶことで、LDL-Cを悪玉コレステロールと呼ばれております。TCだけでなくHDL-C、LDL-Cのバランスが重要です。TGは過食、肥満などで高くなります。コレステロールの基準範囲は心臓病、脳卒中などから危険回避するために設けられた値です。	
	HDL-C	※男 40~90 ※女 40~103	mg/dL		
	LDL-C	※65~139	mg/dL		
	TG	※男 40~149 ※女 30~149	mg/dL		
CRP	C反応性蛋白	0.00~0.14	mg/dL	体内の炎症や組織の破壊などと高くなります。	
糖尿病関連検査	FPG	血糖	73~109	mg/dL	FPGは空腹時の、Gluは食後の血液中のグルコース濃度(血糖値)を表します。食事で大きく変化するので、それ以前の平均的な血糖の状態を観察することが必要でHbA1cやGAが利用されます。HbA1cは赤血球中のヘモグロビンが糖と結合したもので、過去1~2ヶ月間の平均的な血糖状態を、GAはアルブミンと糖が結合したもので過去1~2週間の平均的な血糖状態を、それぞれ反映します。
	HbA1c	ヘモグロビンA1c (NGSP)	4.9~6.0	%	
	GA	グリコアルブミン	11.0~16.0	%	
循環系	BNP	脳性Na利尿ペプチド	18.4未満	pg/mL	主に心臓から分泌され体液や血圧調整に関与するホルモンです。慢性心不全や急性の心疾患の病態把握や予後の推定に有用です。

※臨床ガイドラインに基づく

< 血液検査 >

項目名		基準範囲	単位	検査の意味	
WBC	白血球数	3.3~8.6	10 ³ /μL	血液の細胞成分には白血球、赤血球、血小板があります。白血球数は、好中球やリンパ球などの成分の総数を表します。細菌やウイルスから身体を守る働きがあり身体の中で炎症がある場合や感染症、血液疾患等で変化します。 ヘモグロビンは赤血球中の酸素を運ぶ物質です。ヘマトクリット値は血液全体に対する赤血球の割合を表しています。赤血球数と同様に低い場合は貧血症、高い場合は多血症と言われます。	
RBC	赤血球数	男 4.35~5.55 女 3.86~4.92	10 ⁶ /μL		
Hb	ヘモグロビン(血色素量)	男 13.7~16.8 女 11.6~14.8	g/dL		
Ht	ヘマトクリット	男 40.7~50.1 女 35.1~44.4	%		
MCV	平均赤血球容積	83.6~98.2	fl		
MCH	平均赤血球血色素量	27.5~33.2	pg		
MCHC	平均赤血球血色素濃度	31.7~35.3	g/dL		
PLT	血小板数	158~348	10 ³ /μL		
Neut%	好中球比率	40.6~76.4	%		白血球には顆粒球(好中球、好酸球、好塩基球)、リンパ球、単球など様々な種類があり、その比率を表します。好中球は細菌を攻撃し、リンパ球は免疫防御反応に関係します。単球は感染症などで増え、好酸球は花粉症や喘息などのアレルギーなどで多くなります。
Lymph%	リンパ球比率	16.5~49.5	%		
Mono%	単球比率	2.0~10.0	%		
Eosino%	好酸球比率	0.0~8.5	%		
Baso%	好塩基球比率	0.0~2.5	%		
Reti	網赤血球比率	0.5~1.8	%	赤血球のもととなる細胞で、貧血に対する赤血球産生状態を見ます。	
PT	プロトロンビン時間	70以上	%	一般的に凝固検査と言われる検査です。血液を固める(凝固)ためには血小板以外に凝固因子と呼ばれる12種類の蛋白質があります。それらの因子の働きの組み合わせにより外因系・内因系凝固と呼ばれ、PTは外因系、APTTは内因系の働きを見る検査です。Fbgは凝固因子の一つですが特に炎症反応で上昇するため、その指標として用いられています。PTは、肝臓で作られるため肝機能検査としても使われます。また、抗凝固薬(ワーファリン)の効果判定としても使われており、PT-INRは国際標準法で表したものです。	
PT-INR	国際基準化比				
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	24.0~39.0	秒		
Fbg	フィブリノゲン量	150~400	mg/dl		

白血球の種類

< 尿検査 >

項目名		基準範囲	検査の意味
尿一般定性試験	比重	1.005~1.030	尿の濃さで腎臓での希釈や濃縮力を表しています。
	pH(ペーハー)	4.5~7.5	酸性、アルカリ性を表しています。食物や薬で変化します。
	蛋白	(-)	腎・尿路疾患、腫瘍・炎症性疾患で尿中に蛋白が出てきます。
	糖	(-)	高血糖や腎性糖尿時で尿中に糖が出てきます。
	ケトン体	(-)	脱水、飢餓状態、高血糖のような栄養分がうまく利用できない時に尿中に出てきます。
	ビリルビン	(-)	肝胆道疾患、黄疸、血液疾患などの原因を見るため検査します。
	ウロビリノーゲン	(±)	ビリルビンとウロビリノーゲンの組み合わせで肝胆道疾患、黄疸、血液疾患などの原因を推察します。ウロビリノーゲン(±)は正常です。
	潜血反応	(-)	腎臓・尿路などからの出血をみるための検査です。ビタミンC製剤(サプリメントも含む)服用で検査結果が変化することもあります。また、生理中での検査は陽性になることがあります。
	白血球	(-)	腎・尿路系の感染症や炎症性病変を見るための検査です。
	亜硝酸塩	(-)	腎・尿路系の感染症を見るための検査です。